

透視度計 取扱説明書

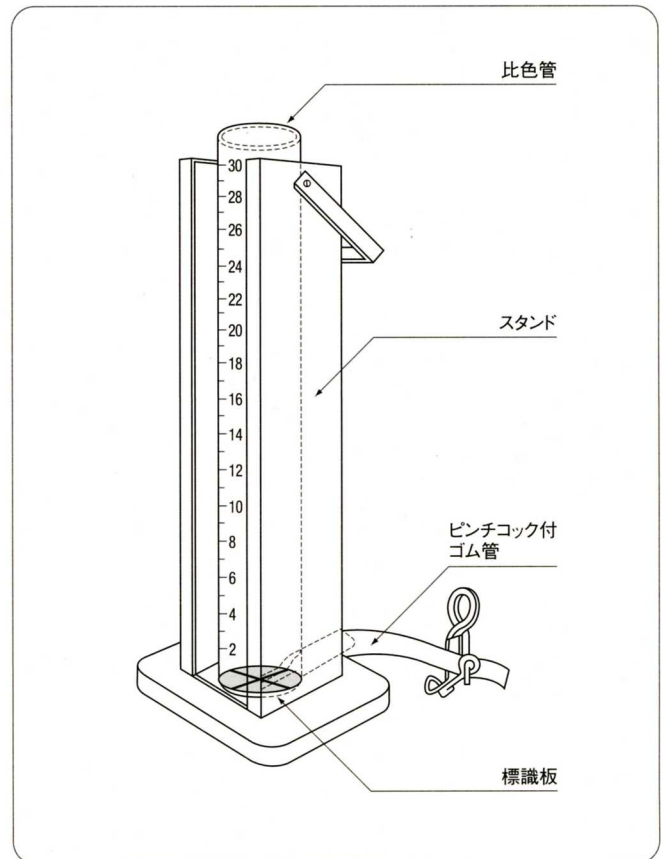
概要

透視度計は水道水・雨水・河川水・湖沼水・海水などの透明度を測定するための器具です。

透視度は、透視度計に試料を入れて上部から透視し、底部に置いた標識板の二重十字が初めて明らかに識別できるときの比色管の目盛を測り、10mmを1度として表します。

使用方法

- 1 よく振り混ぜた試料を透視度計に満たして、上部から底部を透視します。
- 2 上部をのぞきながら、下部のピンチコックをゆるめて試料を速やかに流出させ、底部に置いた標識板の二重十字が初めて明らかに識別できたところでコックを閉じます。
- 3 試料水面の目盛を読みます。
- 4 上記の操作を2～3回繰り返し、読み取った水面の目盛の平均値を求め、透視度として“度”で表します。



注意

- 1 懸濁物質の多い試料の場合、透視度計の底部に沈積して測定誤差の原因となることがありますのでご注意ください。
- 2 透視度計による測定は、人の感覚による試験ですので、他の化学分析のように絶対的な値は存在しません。従って、個々の測定値が全て有効となります。
- 3 測定値は、同一試料について複数の人が測定した値の平均値を用いることが望まれます。測定者が一人の場合は、同一試料について同じ試験を複数回繰り返し、その平均値を用いて下さい。
- 4 照度が同じであっても光源の違いによって彩度が異なる場合、その明るさは透視度に大きな影響を及ぼします。透視度測定時の光源は昼光を原則とし、直射日光は避けて下さい。
- 5 透視度計の上部から、底部に置いた標識板の二重十字を透視する際、「明らかに識別できるとき」は曖昧なため、透視度を判定しづらいことがあります。「明らかに識別できるとき」の判定は測定者の主観によって行って下さい。